

～持続可能な未来へ～ 当別町での有機農業の取り組み

国は、環境への負荷の低減を図る中で、国内外での需要が高まる有機農産物や加工品に対応するため、有機農業のさらなる普及に向けて動いています。

このような国の取り組みを受けて、町内で始まった組織的な有機農業の取り組みを紹介します。



有機農業・有機農産物とは？

有機農業とは

- ①化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない
 - ②遺伝子組換え技術を利用しない
 - ③農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する
- 以上3つの手法を用いて行われ、環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法です。

有機農産物とは

環境への負荷をできる限り低減した栽培管理方法で「有機農産物の日本農林規格(有機JAS規格)」の基準に従って生産された農産物のことです。

この基準に適合した生産が行われていることを第三者機関が検査し、認証された事業者は「有機JASマーク」を使用し「有機〇〇」「オーガニック」等と表示できます。



町内で生産している主な有機農産物



水稲



小麦



大豆

有機農業の現状

日本全体の有機農業の取組面積と面積割合は、海外と比べるとまだまだ少ないのが現状です。

国では、持続可能な食料システムの構築に向け、みどりの食料システム戦略を策定。その中には、2050年までに、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%に拡大するなどの目標が掲げられています。

なお、当別町内の有機JAS認証圃場は令和4年度現在で約20ha。今は町内耕地面積の1%に満たない割合です。

当別町クリーン農業協議会

当別町クリーン農業協議会は、有機農業取組面積の拡大による環境への負荷の低減やオーガニック給食を提供することを目的として設立されました。

9月1日現在で構成農家は7戸。町内で農地を耕作しており、有機農業の手順に従った農業者によって組織されています。米や酒米、小麦、大豆、飼料用とうもろこしを栽培しており、これらの作物はすべて有機JAS認証を受けています。

次のページで、協議会のメンバーからお聞きした有機農業の現状と今後の展開について紹介します。

有機農業について話をお聞きしました

有機農業の現状

有機農業は日本では認知度が低く、他国と比べると取り組んでいる農家が少ないのが現状です。その理由として、除草などの手間がかかる・収量が減る・栽培技術がないということが挙げられると思います。ですが、今後はGPS機能を使って除草機を自動で動かす技術や、雑草をレーザーで除去できる技術を用いれば作業時間が短縮され、有機農業希望者の増加が見込めると思います。（松山さん）

消費者の有機農業への認識

新型コロナウイルスの感染拡大を皮切りに、子どもの出産、家族が病気にかかったなどの理由で、食べ物に気を付ける動きが加速し、最近では多くの消費者が有機食材を求めていると感じています。

しかし、町内で作られた有機食材は町内でほとんど販売されていません。そのため、将来的には町内でも広く販売して町民の方に味わっていただきたいです。（菅村さん）

協議会の立ち上げ理由

農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」の有機農業の取り組み面積を増やすという動きに合わせて協議会を立ち上げました。

今後は、技術者を招いて町内での有機農業を始めようというきっかけ作りや、オーガニック給食を提供することが目標です。（松山さん）

オーガニック給食を提供するために

現在、道内では20以上の自治体がオーガニック給食を提供した実績がありますが、協議会には有機野菜を生産しているメンバーがいません。有機農業で栽培するのは難しいとされていますが、全国的に見れば生産をしている方がたくさんいるので、そういった技術者に指導をしてもらい、有機野菜専門の方がでてきてくれたらと思っています。（松山さん）

有機農業を始める方へ

有機農業は機械や技術の進歩により、手間がかかるものではなくなってきました。化学肥料を止めれば病気にはかかりづらく、除草も技術でカバーできています。農薬の散布はないので、空き時間を他の作業や余暇にあてる事も出来ます。収量も一般的な栽培よりも向上しています。また、協議会として、有機農業を始めようと思っている方でも気軽に取り組めるようなきっかけを作りたいです。（菅村さん）



当別町クリーン農業協議会 会長 松山 雅一 さん（写真右）
当別町クリーン農業協議会 副会長 菅村 健徳 さん（写真左）

有機農産物ができるまで

🌾 松山さんのお米の場合

種もみは60℃のお湯で消毒。苗づくりの土や有機肥料は専用のものを使用しています。一番大変な除草作業は機械で行い、虫食いのお米は色彩選別機で取り除いています。また、有機以外のものと混ざらないよう、作業機は清掃後に使用しています。

🌾 菅村さんの小麦の場合

9月に、大豆が植えられている圃場の上から小麦の種をまいています。専用の有機肥料を3回ほど撒く作業のみで、除草も一切しません。

労力もコストも減らすことができ、収量向上にもつながっています。

🌱 菅村さんの大豆の場合

前年の秋に肥料や堆肥撒きなどの畑づくりをした後、春に畑を起こして整地をします。

除草作業に除草機を使うのは一般的な栽培と変わりませんが、農薬を散布する作業はありません。

～災害に備えよう～ 9月1日は防災の日

災害は前触れもなく、突然起こります。記憶に新しい平成30年の北海道胆振東部地震では、当別町は大きな被害を受けることはありませんでしたが、近年は北海道においても台風の影響を受けることやゲリラ豪雨が発生するなど、今後いつどんな災害が起きるかわかりません。私たちの備えは万全でしょうか。

被害を出さないための「防災」、被害を最小限に抑える「減災」の意識を高め、適切な知識を身に付け、もしもに備えることで自分自身と大切な人々の命を守りましょう。

防災マップを確認

防災マップには地震、土砂災害、洪水で被害を受けやすい地域や避難所の場所など、災害発生時に知っておくべき情報が網羅されています。

災害に備えて日ごろから目を通し、いざという時に不安なく行動できるように、避難所までの経路や安否確認をする方法など、家族で共有しておきましょう。



当別町公式ホームページからも防災マップをご覧になれます

避難先の確認

避難とは「難」を避けること。自宅での安全が確保できるなど、安全な場所にいる人は、避難の必要はありません。避難所には多くの避難者が集まり、感染症のリスクが高まります。避難所以外へ避難することも検討しましょう。

浸水時においては、在宅避難の「3つの条件」に合致し、自宅が安全だと判断できる場合は、自宅に留まることも考えてみましょう。

1. 洪水により家が倒れたり、崩れたりしてしまうおそれがないこと
2. 浸水する深さより高いところに部屋があること
3. 水がひくまで我慢ができ、水・食料などの備えが充分にあること

ただし、安全な避難先が確保できない場合は、ためらわずに避難所へ避難してください。

車中泊をするなら

車中泊をする場合、地震発生直後や悪天候時は危険です。周囲の状況をよく確認してください。

また、気象情報や町が発令する避難情報を収集し、安全に避難するようにしましょう。

避難所一覧

右のQRコードから近くの避難所を事前に確認しておきましょう。



情報収集は正確に

災害時には、根拠のないデマやうわさが広がり、二次災害につながりかねません。

情報が本当に正確なものかどうかを確認するために、情報の出所を常に確認する習慣をつけることが大切です。

また、行政や公的機関から発信される信頼できる情報にアクセスすることを心掛けましょう。

当別町では公式ホームページの他に「Yahoo! 防災」「X (旧 Twitter)」「LINE」で災害等の情報を発信しています。登録がお済みでない方はこれを機に右のQRコードからご登録ください。



Yahoo! 防災



X (旧 Twitter)



LINE

非常時の持ち出し品・備蓄品チェックリスト

非常食・飲料水

- 非常食（アルファ米や缶詰、乾パン、カップ麺、レトルト食品など）
- 飲料水（1人当たり1日3ℓが目安）
- 簡易食器（割り箸、紙コップ、紙皿、ラップなど）
※非常食や飲料水は1人当たり最低3日分、できれば7日分を用意しましょう。

情報収集用品

- 携帯電話（充電器、モバイルバッテリー）
- 携帯ラジオ（予備電池）
- 防災マップ

救急・衛生・感染症対策

- 救急セット（消毒液、ガーゼ、絆創膏、爪切り、体温計など）
- 衛生・感染症対策用品（マスク、ティッシュ、トイレトペーパー、アルコール消毒液、ウェットティッシュなど）
- 風邪薬や解熱剤などの常備薬、常用薬、お薬手帳
- 歯ブラシ、液体はみがき、洗顔用品
- 携帯トイレ

※あくまでも一例です。各家庭や個人の状況に応じて用意し、定期的に中身を確認しましょう。

ローリングストックの習慣を

水や食料、生活必需品などは日頃から少し多めに買って置き、日常生活で使いながら買い足し一定量を備蓄する「ローリングストック」の習慣をつかま

しょう。

また、断水に備えてお風呂の残り湯をためておくことで、生活用水として利用できます。

地域防災セミナー開催

9月30日（土）10時00分～11時30分

「災害時における薬剤師の活用法」

講師 櫻田 渉

（北海道医療大学薬学部講師）

9月30日（土）11時45分～12時45分

「災害事例について・備蓄品の紹介」

講師 井田 洋佑

（当別町危機対策課危機対策係長）

会場：北海道医療大学当別キャンパスC21講義室

定員：各回30名

受講料：無料

申込期限：9月22日（金）

申込：北海道医療大学学術交流推進部地域連携課

TEL:0133-23-1129

Mail:nice@hoku-iryuo-u.ac.jp

